

インタビュー

今の学部を選んだ理由は？

古里:道路や橋など、社会生活に欠かせない建造物に関わる土木の仕事は、この先もきっとなくなるないし、自分が手がけた仕事が残るといふ点にも惹かれたからです。
 附田:大好きなデザインが学べること、それに大学が自宅から近い場所にあり、通学しやすいことも魅力でした。

大学で楽しいと感じたことは？

古里:座学で学んだ知識が、実際の建造物においてどのように生かされて地域貢献できるのか、日常生活とのつながりが感じられたときです。地域と関わらないと、現場を知らないエンジニアになってしまう気がします。
 附田:地元の酒造会社とコラボしたラベルデザインの制作や、伝統工芸品の南部菱刺しを取り入れた文具デザインなど、地元企業や地域と一緒にモノづくりができることです。

将来はどこで何をしてるんだろう？
 地元に戻る・残るってどうなんだろう

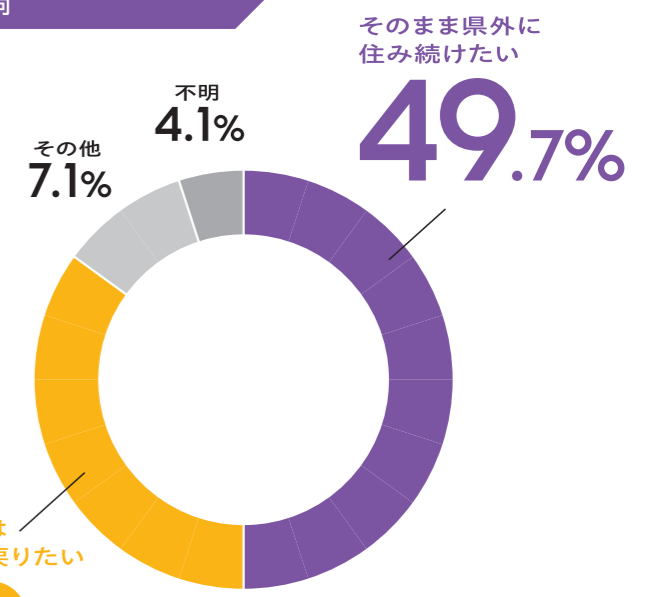
青森県への愛着

[ある・どちらかといえばある]

74.0%

出典:青森県「令和5年度青森県のイメージ等に関する調査」

県外就職希望の大学生のUターン意向



出典:青森県「若者の将来選択に関するアンケート調査(2020年)」

夏休みなどの過ごし方は？

古里:長期休みは、アルバイトで貯めたお金で趣味や旅行をエンジョイしています。今年は学会に出場するので、春休みは研究と実験をして過ごす予定です。
 附田:1年生のときは、ひたすらアルバイトに励み、2年生ではインターンシップをしていました。3年生になってからは就活と絵本の展示会などです。

やりたいことを見つけるコツは？

古里:高校時代は宇宙物理学に興味があったのですが、土木工学を学ぶうちにその面白さに夢中になりました。最初から興味がないと決めつけるのではなく、視野を広げることも大切。
 附田:私は、多くのジャンルのデザインを学ぶなかで、それらの要素がすべて詰まっているのが絵本だと気づきました。まずは幅広く学んでみては？



Profile
 八戸工業大学 工学部 土木建築工学科(土木工学コース)4年
 古里 春花さん
 階上町出身。南郷地域をフィールドにした「しまもり SDGs プロジェクト」、さくら幼稚園との交流、「総合デザイン」の授業では中心市街地の課題解決に取り組む。卒業研究のテーマは、消波ブロック周辺の水の流況解析。地域に密着したアプローチ・デザイン力を身につけ、街づくりに貢献するエンジニアをめざし、同大学院に進学予定。
 八戸工業大学 感性デザイン学部 感性デザイン学科3年
 附田 涼那さん
 六戸町出身。伝統工芸品の南部菱刺しをモチーフにした文具デザインや、地元企業とコラボした魅力発信などを行う。八戸酒造株式会社が主催する「八仙蔵まつり」では、自分たちがラベルをデザインした「男山」の販売も手がける。将来の夢は、絵本作家。展示会などを行いながら、魅力ある絵本作りに取り組む。

古里:進路や将来のことで悩んだときは、実際に先輩たちに話を聞いたり情報を得ることで道が拓けることもあるので、そういう選択肢も頭に入れておいてほしい。
 附田:大学は勉強だけでなく、人とのつながりを学べる場所でもあります。自分のやりたいことを精一杯頑張って、皆さんの夢を実現してください。

高校生へのメッセージ



青森県立三沢商業高等学校 情報処理科2年
 生駒 大悟さん
 澤下 侑良さん

YES! AOMORI